

I. 急性心筋梗塞患者のカテーテル治療（治療までの時間）

急性心筋梗塞に対する再灌流療法を早期に行うことは、生命予後の改善に重要である。病院到着（door）からPCI（ballon）を行うまでの時間は、door-to-ballon時間として、その施設での急性心筋梗塞治療の質を表す指標として重要視されている。このdoor-to-ballon時間が90分以内であれば、質の高い治療を行っているとして評価される。

当院では、急性心筋梗塞の患者さんが救急外来に搬送され、急性心筋梗塞の診断がつけば、当直医とオンコールの循環器専門医により速やかに心臓カテーテル検査を行い、ステント留置術を中心とした再灌流療法を施行している。door-to-ballon時間を規定する要因としては、医師の診断および治療技術の能力だけでなく、救急外来での速やかな処置、当直の放射線技師や画像診断部門の専属看護師の能力など、多岐に渡る因子が関与しており、その施設の急性心筋梗塞の治療の質を表す総合的な指標として有用である。

【当院の定義】

- 「対象」 – ① 救急外来に救急搬送もしくは直接来院した患者
② 急性心筋梗塞と診断された患者
③ 緊急的にカテーテル治療（PCI）を実施した患者
- 「緊急的」 – 救急外来より直接カテ室へ入室した患者
- 「治療までの時間」 – 来院から治療開始（再灌流）までの時間

【当院の計算方法】

- 分子：ア) 治療までの時間が90分以内の件数
- 分母：イ) 急性心筋梗塞の診断で実施した緊急PCI件数
- 分子：ウ) 救急搬送され治療までの時間が90分以内の件数
- 分母：工) 救急搬送され急性心筋梗塞の診断で実施した緊急PCI件数

【当院の数値】

<全件>	ア) 90分以内	イ) 緊急PCI	90分以内の割合
2011年	62	88	70.5%
2012年	50	68	73.5%
2013年	54	86	62.8%
2014年	39	65	60.0%
2015年	62	81	76.5%
2016年	53	78	67.9%
2017年	56	76	73.7%
2018年	53	81	65.4%
2019年	53	80	66.3%
2020年	59	93	63.4%

<救急搬送あり>	ウ) 90分以内	工) 緊急PCI	90分以内の割合
2011年	54	71	76.1%
2012年	41	56	73.2%
2013年	51	73	69.9%
2014年	34	49	69.4%
2015年	53	65	81.5%
2016年	53	72	73.6%
2017年	52	69	75.4%
2018年	42	63	66.7%
2019年	46	71	64.8%
2020年	51	76	67.1%